

# 磐城大衆新聞

## 多忙の實業家は

### 新聞雜誌新刊書を

#### 如何に讀みつゝあるか

折々にあそぶ違はあり乍ら  
いとまなしとて書よまぬかな  
古歌の訓ふる所は矢張り穿可しだ、新知識  
の吸収をたえず日常多繁の中に進めるには  
どうすべきか

東京通信 小林 成行

新聞雜誌、新刊書の能率的次に、雜誌類だがこれは主退社以外の自動車の中と稀  
の讀方は暇のない私共の常として自動車の中で讀むには夕刻家の中では、それ  
に心掛けて居る事であるが、尤も讀むとから日曜の少時間を新刊書  
私は原則として其の日の朝いつても主要目的のだけ拾う方へ割當て、居る、然し  
刊新聞は朝起きて食事に就き讀みをするので、まあ眺めと云つても私に一番讀書  
いて食事を始める前に四種めると言つた程度のもので、この機会を與へてくれるのは  
類讀み、出勤の自動車の中自分に關する記事或は關係これから夏運子がら通過す  
で三種類、夕刊は歸りの自事業の記事以外は餘り身を流す車の中と時々長い旅行  
動車の中で全部讀むことに入れて讀む餘裕を持たないをするその流車の中である  
して居るが、これで私の關次に新刊書だがこの範圍は故に言葉を換へて言へば流  
係事業其他のニュースに就文藝の創作、和歌、俳句車が私の知識の供給所だと  
いて不便を感じる事が出来るものが大部分を占めて居るも言へる位だ。  
る。これは主として出勤

## 内郷村々長

### 野木龜之助氏

君は内郷村大字御所の舊家八日を以て生まる。幼より  
にして、徳望家の稱ある故學才凡を抜き神童と呼ばる。野木留次郎氏母ミツ子の長明治廿八年歩兵第四聯隊に  
男なり、明治八年十二月廿八日營國民の大義を完ふして

歸る歸郷後父の業を繼ぎ専  
ら家運の隆昌に努む君又た  
父の性を承け少壯より村事  
に奔走し、地方産業殖産興  
業の發達を計り先覺者を以  
て目せらる。明治三十七年  
二月東洋の風雲急を告げ日  
露の職端を開くや、動員下  
績を以て法科を卒業す、後

## 鎮重の界曹法

### 氏吉元畑漆

君は常曹法である、無盡業たるや庶民  
曹會の權機關として一日も社會に欠  
として各々くべからざる必須の組織で  
あり、慶應あり且つ施設である、會長  
二年正月元 小宅氏は斯業は社會生活の  
日静岡縣靜上如何に最大最高の使命  
岡市新道にあるかを痛感し茲に専心斯  
業に精力を傾注するの決心  
幼より學をなす、一意本社事業に  
好み古今東 奮闘しつゝあり、會長の決  
西の書を讀 心覺悟にして既に斯の如き  
破し郷校を 潔白にして献身的なる動機  
を伴へる業界に嶄然として  
を伴へる業界に嶄然として  
君は鈴木榮吉氏の長男に  
安政三年三月三日福島縣  
岩瀬郡廣戸村に生る、天資

## 鈴木 榮氏

本縣名町長と呼ぶ  
小名濱町々長

## 眞木 桓氏

常曹法曹界は多士濟々たる權威者たるに躊躇せぬもの  
で、此間に處して年齢資望 社の法律顧問たること數十  
其に斯界の中堅人物として 君の地盤と信望とに至つて  
四隣を壓する辯護士眞木桓 氏は天資聰慧にして機才あ  
り、嬉戯自ら群童と異なり神童 として親しみの念起さしむ  
と謳はる、幼より人以其誠や君の法律眼を燃せしむる  
前途を嚮望する多大なり。光飽く迄透徹し立論的確人  
相馬中學を出で、東都に をして敬服せしむる秋霜の  
笈を負ひ、中央大學に入り 概あり、君一度事務に臨む  
抜群の成績を以て、卒業す や熱誠努力全精神を傾注し  
後官海に游泳して檢事の職 歩も誤らなき驚くべき偉才  
を採り、原理方學の研究に たり、年齢尙少壯君の將來  
故山に歸る。

## 鈴木 榮氏

君は鈴木榮吉氏の長男に  
安政三年三月三日福島縣  
岩瀬郡廣戸村に生る、天資

毎月二回 一日 十五日發行  
定價 一部 五十錢  
廣告料 場所指定 十錢増  
印刷所 磐城大衆新聞社  
發行所 磐城大衆新聞社

令に應召歩兵第二十九聯隊  
に屬して出征滿洲の野に戰  
ひ遼陽沙河奉天の各所に轉  
戦す敵陣に突入して敵の心  
膽を寒からしめ、有名を軍  
中に馳す上官の認むる所と  
なりしが卅八年三月不幸敵  
彈の爲めに負傷、仙臺に歸  
還す。以來村治の進展に努  
力し同卅九年消防部長に四  
十一年村會議員に、四十二年  
區長四十四年収入役、大正  
二年組頭、同四年郡會議員  
五年助役其他名譽職に擧げ  
られ一村を見る自家の如く  
日夜村の發展に全力を傾注  
し治績輝る不可君は豪氣猛  
邁赤誠以て、村治の發展を  
企劃し其の功顯著なり、一  
々枚舉に遑不有、大人物と  
信望高し。

## 磐城無盡商會長

### 小宅嘉久治氏

常曹線平町大町磐城無盡商連隆々として今日ある所以  
會は年一年と堅實なる發展のもの、決して偶然に非ざ  
り、庶民金融機關たるを知る小宅氏は新進氣鋭  
使命を遺憾なく遂行して社  
運隆々たり、創立十二年を  
迎へ會長に小宅嘉久治氏相  
談役に大平菊治郎氏、小宅  
嘉惠藏氏等の新智識あり、  
會員は實に一萬に近き盛況  
政治に理解あり更に進んで  
新境地を耕し以て新勢力を  
確立し新富源を拓かんとす  
清新の空氣に活きんとす  
人格者にして理財に富み  
事業的頭腦の所有者として  
至誠の人熱情の士にして眞  
に首領たるの資格を具備せ  
る當代の傑人たり。

## 眞木 桓氏

常曹法曹界は多士濟々たる權威者たるに躊躇せぬもの  
で、此間に處して年齢資望 社の法律顧問たること數十  
其に斯界の中堅人物として 君の地盤と信望とに至つて  
四隣を壓する辯護士眞木桓 氏は天資聰慧にして機才あ  
り、嬉戯自ら群童と異なり神童 として親しみの念起さしむ  
と謳はる、幼より人以其誠や君の法律眼を燃せしむる  
前途を嚮望する多大なり。光飽く迄透徹し立論的確人  
相馬中學を出で、東都に をして敬服せしむる秋霜の  
笈を負ひ、中央大學に入り 概あり、君一度事務に臨む  
抜群の成績を以て、卒業す や熱誠努力全精神を傾注し  
後官海に游泳して檢事の職 歩も誤らなき驚くべき偉才  
を採り、原理方學の研究に たり、年齢尙少壯君の將來  
故山に歸る。

君は鈴木榮吉氏の長男に  
安政三年三月三日福島縣  
岩瀬郡廣戸村に生る、天資

準備の意気組

新時代に  
成功せんと  
する青年は  
かく心得べし

仕事をやれるものではない... 夢を見よ。...

義俠正義の第一人  
堀江工業株式會社社長  
江口忠一氏

君は明治十四年三月八日を日の如く粉骨砕身... 君は明治十四年三月八日を日の如く粉骨砕身...

Table with multiple columns listing names and addresses. Columns include: 平町收入役, 小名濱町, 内郷村, 湯本町, 平町九品寺, 平町五丁目, 平町大町. Names listed include: 大河原金之助, 久保田醫院, 桐原英純, 松井深, 中村醫院, 石川八郎, 遠藤心光, 磐城無盡商會, 星野七郎, 湯本町, 岡潔, 釜屋商店, 野木龜之助, 西村藥局, 難波醫院, 高井履物店, 立花雄七, 川瀬幸治, 筒井糸司, 高久病院, 佐々木善作, 佐々木善作, 赤井村, 赤井村, 赤井村, 赤井村, 赤井村.